

ゆうだい21 (業務用米) : 栃木県

ポイント

「ゆうだい21」の特徴: 早生種で、長稈・長大穂・耐倒伏性を備え、いもち病に強く、収量、食味はコシヒカリ並で、多施肥条件でも食味が低下しにくいのが特徴である。

栃木県の生産量の9割は、コシヒカリ、あさひの夢で占められている。コシヒカリは量販店及び業務用向けとして、あさひの夢は業務用向けとして販売しているが、米の消費が減退している中で、新たな実需を開拓し、販売先を確保するため、地元宇都宮大学農学部で開発した「ゆうだい21」の生産と加工・販売に取り組むこととする。

今後の用途・カテゴリとして、冷えても粘りが失われにくい「ゆうだい21」の特性を生かしたチルド用を中心とした弁当・おにぎりの米飯原料として、生産、加工・販売を図ることとする。



ゆうだい21の生育状況

ゆうだい21プロジェクト成果発表会

コンソーシアム構成員

名称: 「ゆうだい21」推進協議会

行政: 栃木県芳賀農業振興事務所
(生産活動・技術をバックアップ)

流通業者: 木徳神糧(株)
(生産者と実需者の橋渡し)

実需者: 日本デリカフーズ協同組合
(商品開発とマーケティング)

生産者: コンソーシアムメンバー
(行政、大学と連携した生産活動)

種子供給: 宇都宮大学農学部附属農場
(種子を供給)

事業実施概要

取組前の産地の課題

「ゆうだい21」は、宇都宮大学農学部附属農場が育成し、平成22年1月に品種登録した水稻粳品種。

現地への栽培が先行する中で、高品質安定多収栽培技術が研究途上。技術確立と栽培農家に対する技術普及指導体制の構築が大きな課題。

コンビニエンス・ストア専用のチルド用弁当・おにぎり等の加工用米飯原料として、他品種との差別化を図るための生産及び加工体制の確立が課題。

販売額 - 円

取組計画

26年度は、新規作付を増やすための栽培技術の確立と加工適性検証の炊飯適性テストを実施。

27年度は、展示圃の設置等による技術指導と食味官能試験等による加工適性検討を実施。

28年度は生産者に対する技術指導と他社製品との加工比較試験を実施。

29年度以降は、3年間の成果を生かして下記目標を達成。

(30年度目標)

販売額 1億円